

2022年3月期第1四半期決算電話会議説明および議事録

参考資料:2022年3月期第1四半期決算説明資料

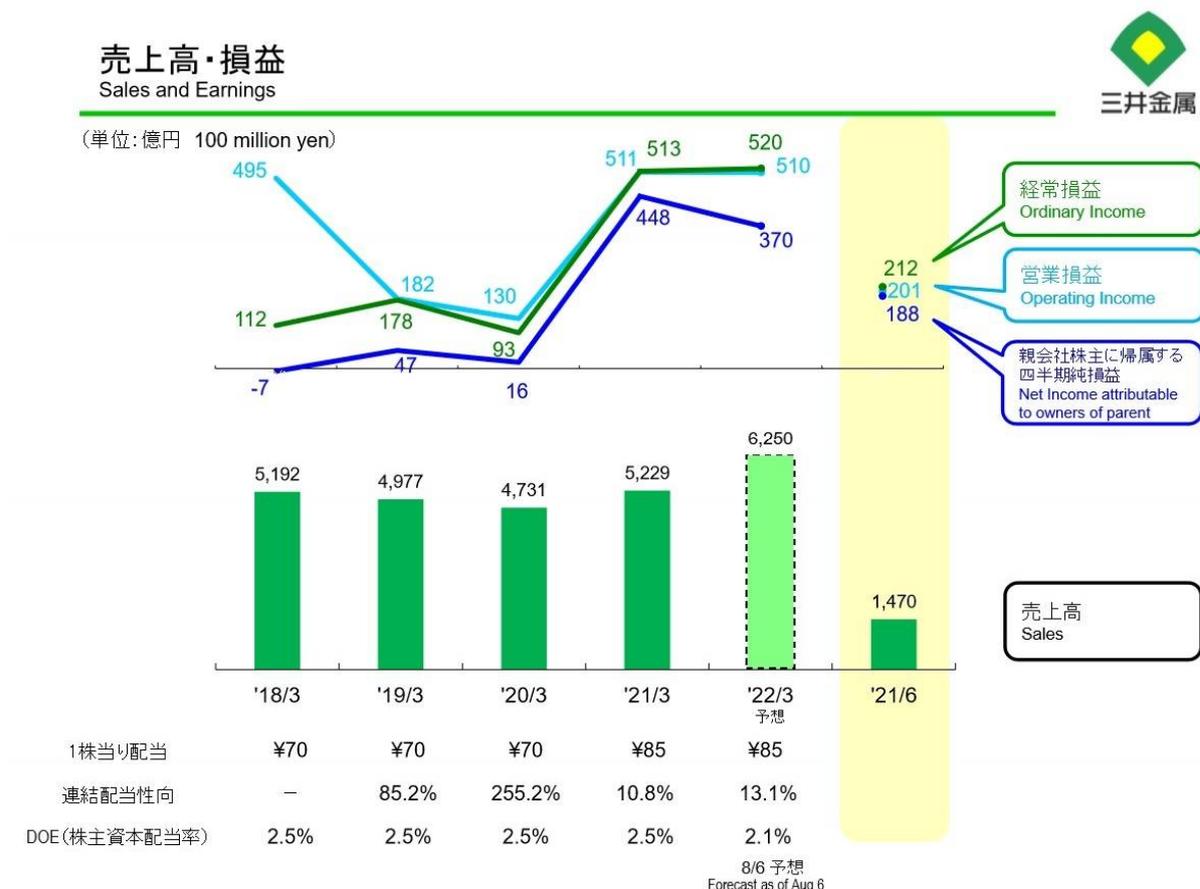
[https://www.mitsui-](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=VqG9kOnih1g%3d&tabid=100&mid=826&TabModule819=0)

[kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=VqG9kOnih1g%3d&tabid=100&mid=826&TabModule819=0](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=VqG9kOnih1g%3d&tabid=100&mid=826&TabModule819=0)

(補足) PKG : パッケージ基板

HDI : マザーボード (High Density Interconnect)

■ご説明



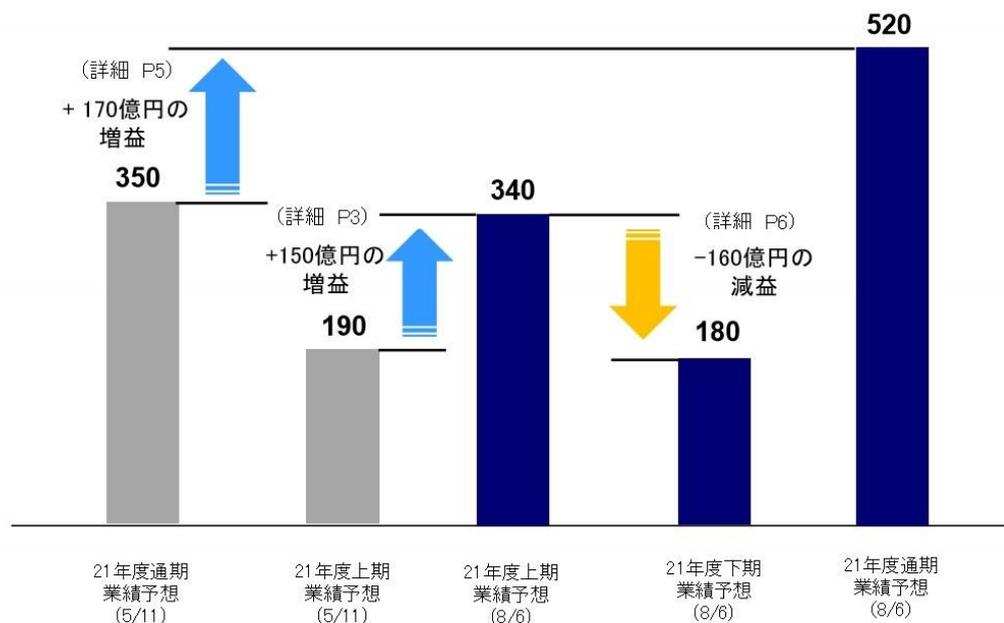
決算説明資料1ページ「売上高・損益」をご覧ください。

・2022年3月期第1四半期決算は、売上高は1,470億円、営業利益は201億円、経常利益は212億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は188億円となりました。

・なお、2022年3月期の連結業績予想は、売上高6,250億円、営業利益510億円、経常利益520億円、親会社株主に帰属する純利益370億円と見込んでいます。

21年度の経常利益は前回予想比で大幅増益を見込む

(単位:億円)



決算説明資料2ページ「21年度経常利益」をご覧ください。

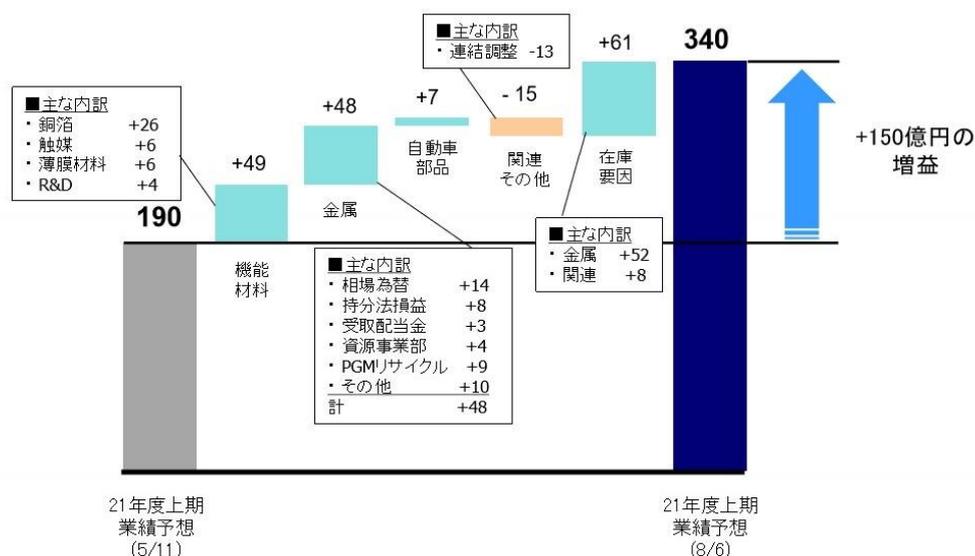
・足許の動向を踏まえて、上期および通期の業績予想を見直しました。

・まず通期の経常利益予想ですが、5月11日に開示した経常利益350億円から170億円増益の520億円に上方修正いたしました。また上期につきましては、これまでの予想190億円から150億円増益の340億円に見直しました。下期の予想についても従来予想より20億円増益の180億円へ修正いたしましたが、上期の予想340億円に比べ160億円低い利益水準となっております。それぞれの要因につきまして次ページ以降でご説明いたします。

21年度上期経常利益は340億円と前回業績予想比で+150億円の増益

対上期業績予想(5/11開示)比較

(単位:億円)



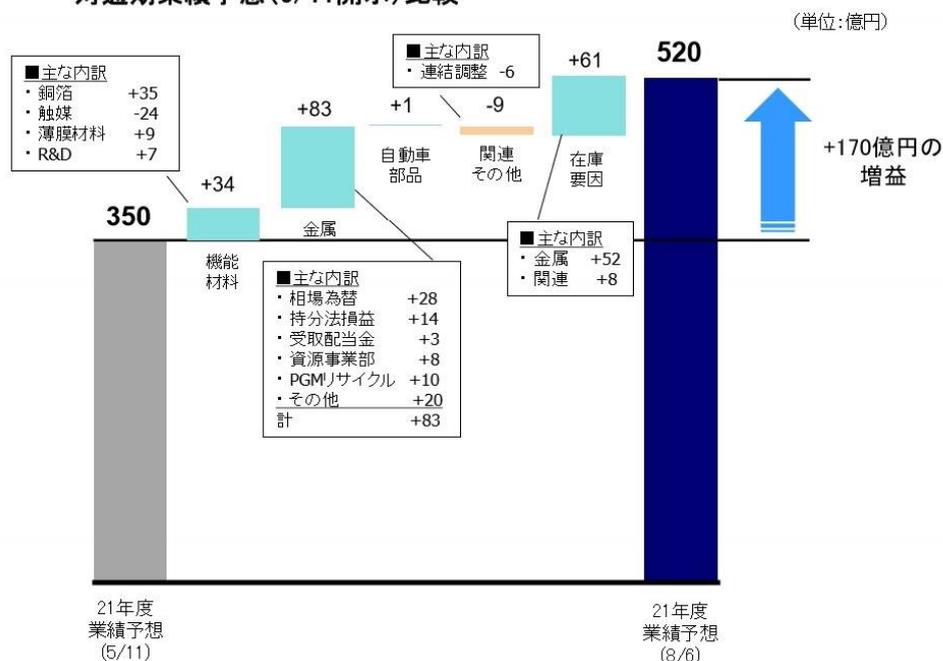
まず上期業績予想の上振れ要因についてご説明いたします。決算説明資料3ページをご覧ください。

・150億円の好転のうち、最も大きな増益要因は金属価格の上昇です。在庫要因の61億円は金属価格が上昇したことによる影響であり、また金属セグメントの主な内訳に記載しております相場・為替の14億円の増益のうち、相場影響が約半分の7億円、持分法損益の8億円の好転にはパンパシフィックカッパーの相場上昇による増益影響が5億円含まれています。資源事業部の増益4億円については主にワンサラの相場影響であり、PGMリサイクル+9億円も相場上昇の影響によるものです。また機能材料セグメントの触媒事業好転+6億円もPGMリサイクル同様貴金属価格上昇によるものであり、これらを合わせますと150億円の増益のうち約90億円強が相場上昇の影響となります。為替の円安影響も含めると、約100億円が相場・為替の好転による影響です。

・次に事業が好転していることによる影響については、PKG向け MicroThin™の販売が従来予想より約14%上振れそうなことをはじめとした要因により銅箔事業において26億円の増益を見込んでいます。また薄膜材料事業において進めている販売価格見直しが想定より進んでいることなども上方修正の要因となっております。

21年度経常利益は 520億円を見込む

対通期業績予想(5/11開示)比較



次に年間の業績予想修正内容についてご説明いたします。決算説明資料5ページをご覧ください。

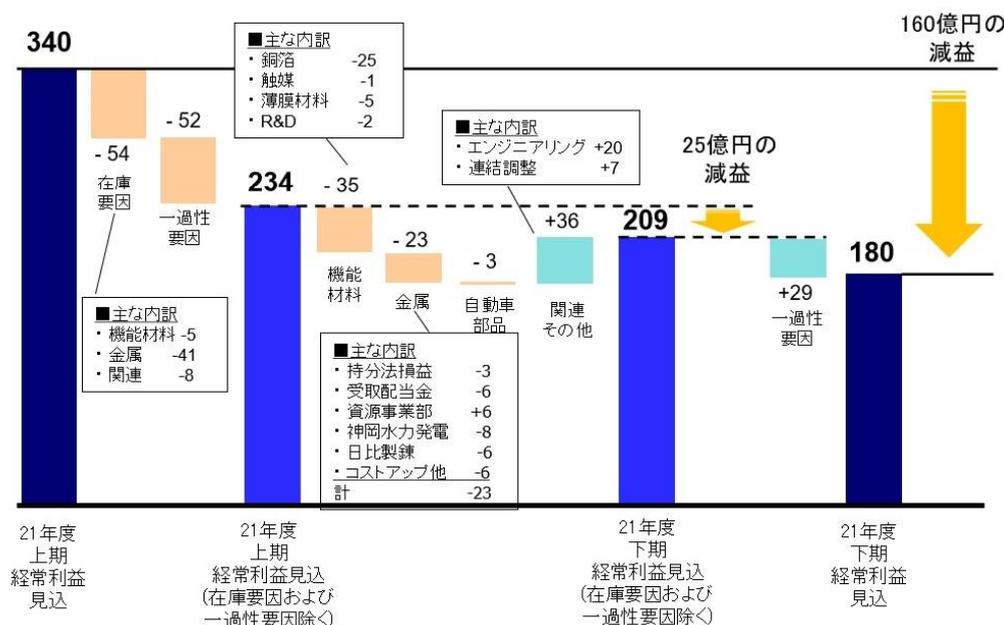
・170億円の好転の内訳としては上期好転の内容と近いものとなりますが、相場の水準を見直したことによる影響は、在庫要因の61億円、金属セグメントの増益83億円のうちおよそ半分の41億円、一方機能材料セグメントの触媒事業においてはロジウム価格を足許に近い水準まで下げて見直したことによるQP差が下期にマイナス30億円発生する見込みであることから、通期でマイナスの24億円となる見込みです。これらを合わせますと170億円の増益のうち約78億円が相場変動の影響となります。為替の円安影響も含めると、約92億円が相場・為替の変動による影響です。残りの好転要因約70億円強については、MicroThin™の販売見直し引上げや薄膜材料の価格見直し影響等により機能材料セグメントにおける好転が約50億円、金属セグメントにおけるコスト見直しの影響等による好転約20億円が主な内訳です。

21年度下期経常利益見込 FY 2021 2nd half Ordinary Income Forecast



21年度下期経常利益見込は180億円と上期比で160億円減益を見込むが
在庫要因、一過性要因を排除すると上期比で25億円の減益となる。
実行面では上期並みの利益水準を目指す

(単位:億円)



6

続きまして上期から下期にかけての減益要因についてご説明いたします。決算説明資料の6ページをご覧ください。

・このグラフは上期および下期の見通しから発生時期のズレ等の特殊要因を除いた内容を示しています。

・一番左が上期の経常利益見通し340億円です。ここには54億円の在庫要因によるプラス効果や触媒の貴金属QP差による影響等が52億円含まれておりますので、それらを加味すると、上期の経常利益見通しは234億円となります。同様に一番右の下期予想180億円にはロジウム価格下落による触媒のQP差等29億円の一過性要因によるマイナスが含まれており、それを除くと下期の経常利益予想は209億円となり、上期と下期の利益水準の差は25億円程度であることを示しています。

・機能材料セグメントでは銅箔が季節要因として上期に需要のピークがくることなどから下期にかけては減益となる見込みですが、当然実行面ではさらなる好転を目指します。

・一過性要因については決算説明資料7ページに内訳がございますので、ご確認ください。

事業セグメント別内訳 Segment Information by Business



(単位: 億円 100 million yen)

	第1四半期 Q1Results			上期 1st half			通期 FY		
	2021	2020	増減 Difference	2021 (予想) Forecast	2020	増減 Difference	2021 (予想) Forecast	2020	増減 Difference
■売上高 Sales									
機能材料 Engineered Materials	620	349	271 77.7%	1,350	860	490 56.9%	2,570	2,078	492 23.7%
金属 Metals	528	369	159 43.0%	1,100	880	220 25.0%	2,240	1,936	304 15.7%
自動車部品 Automotive Parts and Components	198	123	75 61.3%	430	342	88 25.7%	860	811	49 6.1%
関連 Affiliates Coordination	288	248	40 15.9%	610	526	84 16.0%	1,280	1,159	121 10.4%
調整額 Adjustment	-163	-165	2	-340	-362	22	-700	-754	54
連結 Consolidated	1,470	924	546 59.1%	3,150	2,246	904 40.2%	6,250	5,229	1,021 19.5%
■経常利益 Ordinary Income									
機能材料 Engineered Materials	109	38	71 188.7%	195	83	112 133.8%	270	265	5 1.8%
金属 Metals	113	-25	138 78.4%	145	81	64 78.4%	225	228	-3 -1.4%
自動車部品 Automotive Parts and Components	8	-20	27 9.8%	12	-8	20 9.8%	21	19	2 9.8%
関連 Affiliates Coordination	1	-4	5 162.2%	7	3	4 162.2%	35	26	9 36.5%
調整額 Adjustment	-19	-7	-12	-19	-19	0	-31	-26	-5
連結 Consolidated	212	-18	230 141.4%	340	141	199 141.4%	520	513	7 1.4%

9

第1四半期の業績についてご説明いたします。決算説明資料9ページの「事業セグメント別内訳」をご覧ください。

・第1四半期の売上高は、前年同期比約59%増加し、1,470億円となりました。金属価格の上昇や、昨年の新型コロナウイルス感染拡大影響からの回復により、各セグメントともに増収となりました。経常利益は、前年同期に対し、230億円増益の212億円となりました。第1四半期の経常利益をセグメント毎に見ていきますと、

・機能材料セグメントは、昨年の新型コロナウイルス感染拡大の影響からの回復や、貴金属価格上昇にともなうQP差等により触媒事業が増益となったことや、MicroThin™の販売が堅調に推移したことにより銅箔事業が増益となったこと等により、当セグメントの経常利益は前年同期比約189%増益の109億円となりました。

・金属事業セグメントは、亜鉛・鉛のLME価格が上昇したことや、昨年22億円のマイナスで計上したカセロネスの影響がなくなったこと、同じく昨年の八戸製錬の大規模定期修繕の影響マイナス14億円がなくなったこと等から、当セグメントの経常利益は前年同期比138億円増益の113億円となりました。

・自動車部品セグメントは、昨年の新型コロナウイルス感染拡大の影響からの回復により、経常利益は前年同期比27億円増益の8億円となりました。

・決算説明資料10ページに各セグメントの経常利益差異について、要因別に分析したマトリックスを掲載しておりますので、ご参照願います。第1四半期決算の概況は、以上です。

事業セグメント別内訳 Segment Information by Business



(単位: 億円 100 million yen)

	第1四半期 Q1Results			上期 1st half			通期 FY		
	2021	2020	増減 Difference	2021 (予想) Forecast	2020	増減 Difference	2021 (予想) Forecast	2020	増減 Difference
■売上高 Sales									
機能材料 Engineered Materials	620	349	271 77.7%	1,350	860	490 56.9%	2,570	2,078	492 23.7%
金属 Metals	528	369	159 43.0%	1,100	880	220 25.0%	2,240	1,936	304 15.7%
自動車部品 Automotive Parts and Components	198	123	75 61.3%	430	342	88 25.7%	860	811	49 6.1%
関連 Affiliates Coordination	288	248	40 15.9%	610	526	84 16.0%	1,280	1,159	121 10.4%
調整額 Adjustment	-163	-165	2	-340	-362	22	-700	-754	54
連結 Consolidated	1,470	924	546 59.1%	3,150	2,246	904 40.2%	6,250	5,229	1,021 19.5%
■経常利益 Ordinary Income									
機能材料 Engineered Materials	109	38	71 188.7%	195	83	112 133.8%	270	265	5 1.8%
金属 Metals	113	-25	138 78.4%	145	81	64 78.4%	225	228	-3 -1.4%
自動車部品 Automotive Parts and Components	8	-20	27 9.8%	12	-8	20	21	19	2
関連 Affiliates Coordination	1	-4	5 162.2%	7	3	4	35	26	9 36.5%
調整額 Adjustment	-19	-7	-12	-19	-19	0	-31	-26	-5
連結 Consolidated	212	-18	230 141.4%	340	141	199 141.4%	520	513	7 1.4%

9

次に「第2四半期累計期間」の見通しではありますが、同じく9ページの中央の欄をご覧ください。

・第2四半期累計期間の売上高は、第1四半期同様、金属価格の上昇を織り込んだ影響や、好調な銅箔販売の影響等により、前年同期比約40%増収の、3,150億円と見込んでおります。経常利益は、繰り返しになりますが、前年同期に対し、約141%、199億円増益の340億円を見込んでいます。

次に通期の見通しですが、一番右の欄をご覧ください。

・売上高は上期の増収影響と金属価格上昇の影響等により、前年比19.5%増収の6,250億円として見込んでいます。経常利益は、こちらも繰り返しになりますが、ほぼ前年並みの520億円を見込んでいます。

セグメントの業績(1) 機能材料

Performance by Segment – Engineered Materials



(単位: 億円 100 million yen)

	'21/Q1	'20/Q1	増減 Difference	上2021 (今回予想) Forecast 1st Half	上2020 1st Half	増減 Difference	FY2021 (今回予想) Forecast	FY2020	増減 Difference
■売上高 Sales	620	349	271	1,350	860	490	2,570	2,078	492
■営業利益 Operating income	113	41	72	200	92	108	280	265	15
■経常利益 Ordinary income	109	38	71	195	83	112	270	265	5
※実力損益 Real Income	104	38	66	190	85	105	265	256	9

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

経常利益の増減説明

['上2020 → '上2021 予想 +112]

薄膜材料在庫要因 +7
触媒 +55 (貴金属価格差他)
銅箔 +36 (MicroThin™増販他)

[' FY2020 → ' FY2021 予想 +5]

薄膜材料在庫要因 -4
触媒 -35 (貴金属価格差他)
銅箔 +30 (MicroThin™増販他)

(機能材料製品)	(主な用途)
機能性粉体 (電池材料)	 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド車向けニッケル水素電池 ・電気自動車向けリチウムイオン電池
機能性粉体 (機能粉)	 <ul style="list-style-type: none"> ・各種電子部品 ・ガラス研磨材
触媒	 <ul style="list-style-type: none"> ・二輪車・四輪車排ガス浄化用触媒
銅箔	 <ul style="list-style-type: none"> ・高密度パッケージ材料 ・プリント配線基板
薄膜材料	 <ul style="list-style-type: none"> ・フラットパネルディスプレイ



第2四半期累計期間および通期の各セグメントの業績予想につきまして、それぞれご説明いたします。まずは機能材料について決算説明資料17ページの「セグメントの業績(1)機能材料」をご覧ください。

・第2四半期累計期間の経常利益は195億円、対前年同期112億円の増益を見込んでいます。その主な要因ですが、右下の増減説明にあるとおり、触媒で55億円の増益、このうち約40億円が貴金属QP差で、そのほか二輪触媒が対前年24%販売数量増、四輪触媒が同41%増といった影響も含まれております。また銅箔事業で前年比36億円の増益を見込んでおりますが、これは主にPKG向けMicroThin™の販売数量が前年比35%増える見込みである影響です。

・通期の経常利益はほぼ前年並みを予想しています。主な内訳としては、銅箔事業が上期同様PKG向けMicroThin™の販売数量が約3割増えそうなことを反映し、30億円増益とみていますが、一方触媒事業においては足許のロジウム価格が下がっていることを踏まえて前提価格を引き下げたことによるQP差等の影響が大きく、前年比35億円の減益と予想しており、これらの要因が相殺すると見ています。

セグメントの業績(2) 金属

Performance by Segment – Metals



(単位: 億円 100 million yen)

	'21/Q1	'20/Q1	増減 Difference	上2021 (今回予想) Forecast 1st Half	上2020 1st Half	増減 Difference	FY2021 (今回予想) Forecast	FY2020	増減 Difference
■売上高 Sales	528	369	159	1,100	880	220	2,240	1,936	304
■営業利益 Operating income	106	-16	122	140	90	50	225	237	-12
■経常利益 Ordinary income	113	-25	138	145	81	64	225	228	-3
※実力損益 Real Income	78	-18	96	104	57	47	184	157	27

※実力損益: 経常利益から在庫要因を除いたもの

金属価格・為替の推移 Metal Prices and FOREX

	'20/Q1	Q2	Q3	Q4	'21/Q1	Q2予想	下21 今回予想	FY2021 前回予想
亜鉛 Zn \$/t	1,959	2,340	2,631	2,748	2,916	2,900	2,900	2,700
亜鉛(実効) Zn (Actual) \$/t	2,113	2,404	2,624	2,705	2,845	2,835	2,840	2,708
鉛 Pb \$/t	1,670	1,876	1,903	2,020	2,127	2,133	2,100	2,000
銅 Cu (暦年表示 Q1:1-3月) ¢/lb	256	242	296	325	385	440	420	359
銅 Cu (Q1:4-6月) ¢/lb	242	296	325	385	440	420	420	350
為替 US\$ yen/\$	107.6	106.2	104.5	105.9	109.5	109.0	109.0	105.0
為替(実効) US\$ (Actual) yen/\$	107.8	106.7	105.0	106.2	109.6	109.3	109.3	105.6

経常利益増減分析

	上2020 →上2021予想	FY2020 →FY2021予想
相場・為替	34	49
T/C条件(亜鉛)	-18	-39
たな卸資産在庫要因	17	-30
持分法損益	30	32
コークス	-1	-6
受取配当金	-15	-19
その他 ※	17	10
合計	64	-3

※その他の内訳

['上2020→'上2021予想 +17]

・八戸製錬大定修 +14、日比製錬 -12、
亜鉛操業差 +11、資源事業 +4、

['FY2020→'FY2021予想 +10]

・八戸製錬大定修 +14、PGMリサイクル -14
資源事業 +8

2021年度年間損益感応度(経常損益)

Sensitivity to ordinary income (for FY2021)

(億円 100 million yen)

フルオープン 予約含む

亜鉛(LME) Zn	±100\$/t	11.9	7.7
鉛(LME) Pb	±100\$/t	2.8	2.8
為替 US\$(yen/\$)	±1yen/\$	5.0	4.1

続きまして金属事業セグメントです。決算説明資料18ページをご覧ください

・第2四半期累計期間の経常損益は145億円、対前年同期64億円の増益を見込んでいます。右下の増減説明にあるとおり、買鉱条件の悪化や銅鉱山権益売却による受取配当金の減少等はあるものの、相場および為替の好転で34億円、それに伴う在庫要因で17億円の好転、その他持分法損益、主にカセロネスのマイナスがなくなったことによる影響ですが、こちらで30億円の改善等がその主な要因となっております。

・通期の経常利益はほぼ前年並みを予想しています。相場・為替の影響は下期分増えるものの、買鉱条件の悪化の影響が大きいことや前年下期は金属価格上昇による在庫要因が47億円のプラスサイドで発生していたものが、今年下期は発生しない見込みであること等が、年間では横ばいの利益水準となる要因です。

セグメントの業績(3) 自動車部品

Performance by Segment – Automotive Parts & Components



(単位: 億円 100 million yen)

	'21/Q1	'20/Q1	増減 Difference	上2021 (今回予想) Forecast 1st Half	上2020 1st Half	増減 Difference	FY2021 (今回予想) Forecast	FY2020	増減 Difference
■売上高 Sales	198	123	75	430	342	88	860	811	49
■営業利益 Operating income	3	-22	25	8	-12	20	18	14	4
■経常利益 Ordinary income	8	-20	27	12	-8	20	21	19	2

[三井金属アクト]	(主な用途)
自動車部品 	・自動車用ドアロック

経常利益増減分析	上2020 →'上2021予想	FY2020 →FY2021予想
増減販	27	22
コスト削減	4	14
その他※	-11	-34
合計	20	2

※その他の内訳

['上2020→'上2021予想 -11]

・鋼材・樹脂価格上昇 -9、
一時帰休助成金他 -5、輸送費上昇 -3

['FY2020→'FY2021予想 -34]

・鋼材・樹脂価格上昇 -21、
一時帰休助成金他 -7、輸送費上昇 -7

19

続きまして自動車部品セグメントです。決算説明資料19ページをご覧ください。

・第2四半期累計期間の経常損益は12億円、対前年同期20億円の増益となる見込みです。右下の増減説明にあるとおり、ほぼ増販の影響です。一方で鋼材や樹脂の価格や輸送費が上昇していることによるコストアップもあり、増益幅はその分小さくなっています。

・通期の経常利益はほぼ前年並みを予想しています。鋼材や樹脂の価格や輸送費は下期も改善しないと見ていることがその主な要因です。

■ 質疑応答

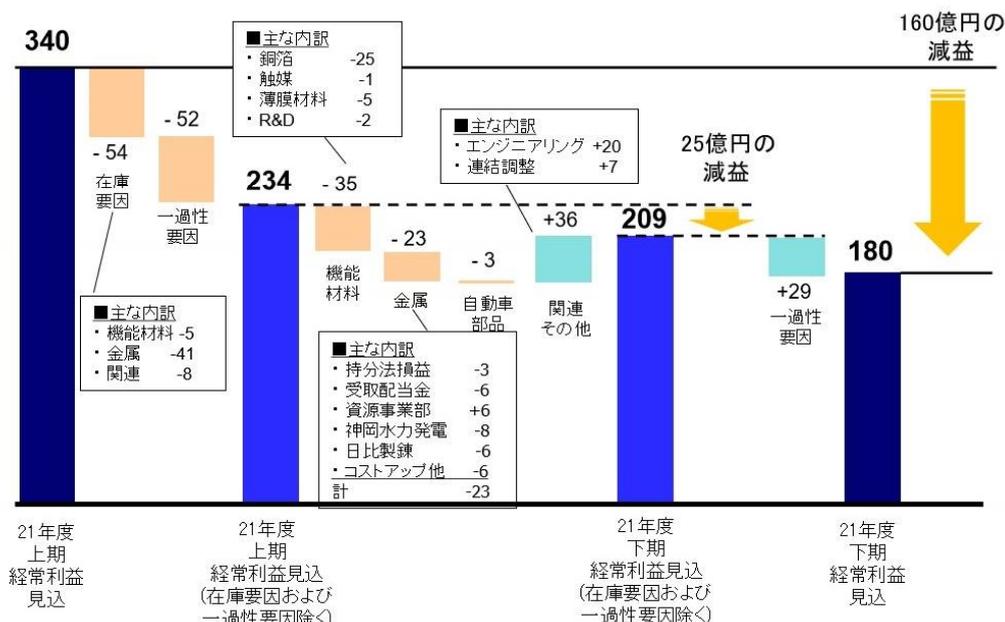
【全体】

21年度下期経常利益見込
FY 2021 2nd half Ordinary Income Forecast



21年度下期経常利益見込は180億円と上期比で160億円減益を見込むが
在庫要因、一過性要因を排除すると上期比で25億円の減益となる。
実行面では上期並みの利益水準を目指す

(単位:億円)



- Q. 昨年から実力損益という説明をされているが、決算説明資料P6の青いグラフが従来と同じ定義と理解してよいのか、それとも若干異なるのでしょうか。
- A. 従来から説明していた在庫要因と昨年から説明している一過性要因を足したものが実力外という定義は、昨年説明した内容から変えていない。当社が一過性要因と考えているものは、決算説明資料P7で一覧にしている。
- Q. 市況がずっと横ばいとした場合、季節要因もあると思うが、下期の209億円を倍にした400億円強ぐらいが御社の実力利益と考えてよいか。
- A. 例年、季節要因で上期より下期が減益となることを考えると、決算説明資料P6の在庫要因および一過性要因を除いた上期234億円、下期209億円くらい、通期で440億円や450億円ぐらいが今の当社の実力利益と考える。

【機能材料セグメント】

- Q. 機能材料セグメントでQ2がQ1より減益になるが、その理由を教えてください。
- A. 決算説明資料P7の一過性要因リストのとおり、機能材料セグメントでは触媒貴金属価格影響および銅箔在庫影響の一過性要因でQ2はQ1に対して18億円程度の減益を見込んでいる。

主要製品の動向 Trends of products



	2019						2020					2021					2021予想(5/11)				
	Q1	Q2	Q3	Q4	年間	Q1	Q2	Q3	Q4	年間	Q1	Q2 見込	上期 予想	下期 予想	通期予想 (8/8)	上期	下期	通期			
機能材料	MH合金 MH alloy	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	103	106	110	105	76	102	104	111	98	68	108	88	116	102	95	122	109
	二輪触媒 Catalysts for 2W	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	103	104	109	104	49	128	128	121	107	94	126	110	115	113	113	114	113
	インド向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(102)	(94)	(123)	(105)	(40)	(176)	(164)	(143)	(131)	(90)	(146)	(118)	(137)	(128)	(141)	(142)	(141)
	インドネシア向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(110)	(119)	(116)	(111)	(40)	(71)	(65)	(98)	(88)	(90)	(109)	(99)	(91)	(95)	(80)	(87)	(83)
	その他地域向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(102)	(112)	(88)	(101)	(63)	(88)	(105)	(101)	(89)	(100)	(108)	(104)	(95)	(100)	(88)	(88)	(88)
	四輪触媒 Catalysts for 4W	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	104	98	102	101	61	123	130	117	108	112	147	130	146	138	126	130	128
	銅箔 Copper foil	販売量 Volume of sales	¥月	2,320	2,520	2,530	2,250	2,400	1,860	1,960	1,780	2,460	2,010	2,260	2,280	2,270	2,090	2,180	2,070	2,020	2,040
	MicroThin™ (a) + (b)	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	139	121	116	119	142	153	149	135	145	188	202	195	169	182	168	151	159
	HDI向け MicroThin™ (a)	販売量 Volume of sales	指数 Index	(24)	(34)	(18)	(16)	(23)	(20)	(49)	(40)	(13)	(31)	(35)	(50)	(42)	(27)	(35)	(34)	(27)	(30)
	PKG向け MicroThin™ (b)	販売量 Volume of sales	指数 Index	(76)	(105)	(103)	(100)	(96)	(122)	(104)	(109)	(122)	(114)	(153)	(152)	(153)	(142)	(147)	(134)	(124)	(129)
ITO	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	111	112	109	108	103	91	107	95	99	96	101	99	88	93	99	82	91	
金属 Zinc	亜鉛 Zinc	生産量 Volume of production	千t	56	56	56	52	219	43	56	58	58	215	56	53	109	115	224	109	115	224
自動車部品	サイドドア ラッチ Side door Latches	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	99	97	82	95	59	96	112	102	93	94	—	—	—	—	—	—	—
	日本向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(105)	(98)	(118)	(106)	(65)	(108)	(124)	(112)	(102)	(94)	—	—	—	—	—	—	—
	中国向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(101)	(109)	(43)	(89)	(102)	(109)	(124)	(102)	(109)	(104)	—	—	—	—	—	—	—
	その他アジア向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(99)	(93)	(86)	(95)	(25)	(70)	(93)	(95)	(70)	(83)	—	—	—	—	—	—	—
	欧米向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(92)	(89)	(86)	(92)	(31)	(87)	(100)	(97)	(79)	(90)	—	—	—	—	—	—	—

指数：2019年Q1を100として表示

15

Q. 決算説明資料P15について、機能材料セグメントの主な製品の事業環境、特にQ1、Q2の動きについて教えてください。

A. 二輪触媒は、一番マーケットの大きいインドでQ1にロックダウンが起きたため、Q1のインドの数量が減っており、Q2にかけて操業が通常状態に戻って回復してきた。

四輪触媒は、Q1で半導体不足の影響等があり、数量が伸び悩んだ。マーケット自体は回復していくと考えられるため、Q1からQ2にかけて回復すると見ている。半導体不足の影響については、お客様から生産を挽回すると聞いているため、Q2に影響は含まれていない。

電解銅箔は、フレキ向けが少し計画より下回っている。通信インフラ向けでは、サーバー向けが堅調に推移している一方で、5G基地局向けが、Q2で調整があり少し数量が減っている。そのため電解銅箔ではフレキ向け、通信インフラ向け以外で数量が増えている。

MicroThin™は、HDI向けはQ1から立ち上がって、Q2でピークを迎えるという従来通りの需要動向。PKG向けは、今年度に入って非常に需要が旺盛であり、中でも特にスマホ向けが非常に好調。その理由は、5Gモデルの生産台数増加で、スマホ1台あたりのMicroThin™使用量が増えたためと見ている。

Q. 触媒について、インドネシアもCOVID-19の状況について厳しいニュースが出てきていますが、今のインドネシアの状況を確認させて下さい。また、数量が下振れする場合は、貴金属のQP差の影響は小さくなるのでしょうか。

A. インドネシアはCOVID-19の影響を一番懸念しているところ。触媒の工場は現在、50%の人員で操業を行っているが、今のところ供給に支障はない。ただ、COVID-19の感染拡大次第では、販売数量減のリスクも当然ある。

また数量とQP差については、数量が減ればQP差の影響は減る方向に効くと見ている。

Q. MicroThin™のHDI向けについて指数が前回予想の30から35と17%引き上げていますが、この要因について教えてください。

- A. HDI向けについて、今年に関しては採用層数や基板面積に大きな変化があるという話は聞いていない。よって、お客様の生産計画が大きく増えているのではないかと考えている。
- Q. PKG向けMicroThin™が大きく上方修正しており、その理由がスマホ台数ではなく1台当たり使用量が想定よりも大きく増えているとのことだが、そのようなことは事前にわからないのでしょうか？
- A. スマホの中でMicroThin™がどれほど使われるのか、を事前に把握するのは限界があり、事前にわかる性質のものではないことをご理解いただきたい。
- Q. 世界のスマホのほとんどのパッケージ基板に御社のMicroThin™が入っていると理解しているが、5G対応が進んでいくと、MicroThin™のPKG向けが、さらに増えていくのかどうか教えてください。
- A. 昨年発売されたスマホを開いてみると、5G対応スマートフォンに使われているMicroThin™の量は明らかに増えているのが見える。足元の販売数量の増加と照らし合わせて考えると、5G化の進展でMicroThin™の販売量の増加は実際に起こっていると考えている今後ミリ波対応になっていくと、さらにMicroThin™の使用量が増えそうだという傾向は見えているので、5G化の進展でPKG向けMicroThin™の販売量は増えていく傾向にあると考えている。
- Q. 5G対応のスマホになると、MicroThin™の使用原単位が何%増えそうとか、具体的にどこ部分が増えるといったことを教えていただけますでしょうか。
- A. 5Gになるとアンテナインパッケージが採用されて、そこにMicroThin™が使われていることは分かっている。Sub6の5G対応になると10%程度増えると言っていたが、実際はもう少し増えそうな感じ。ミリ波対応になるとさらに増えそうということは傾向としてはつかんでいるが、今の段階で定量的に答えられるデータがない。
- Q. MicroThin™のPKG向けについて、Q1の指数が153となっている。元々、日本はフルキャパで操業していたと思うが、今はPKG向けの生産に関しては、日本とマレーシアで見るとどれくらい生産移管が進んでいるのか教えてください。
- A. Q1の段階では、PKG向けの大体5%がマレーシアという状況。今のところ年度末では、PKG向けトータルのうち1割ぐらゐをマレーシアで作る計画で進めている。
- Q. 銅箔マレーシア工場のCOVID-19感染による操業状況を確認させて下さい。また、操業が制限される状態を前提にQ2の数字を作っているという理解でよろしいでしょうか。
- A. COVID-19の感染拡大により、6月1日から活動制限令が適用され、60%人員で操業することになっている。7月に入り、強化された活動制限令が発令され、1週間程度操業停止になった。その後、また活動制限令に戻り、60%人員の操業を足元行っている。これらの影響を小さくすべく、在庫や日本や台湾からのバックアップで対応していく。
- Q2見込について、販売数量は、その前提で見ている。ただ、7月に入って操業を1週間止めたこともあり、操業の立ち上げ次第では少し追加的なコストが発生する可能性がある。

【金属セグメント】

- Q. 年間の業績予想修正内容の説明の中で、金属セグメントにおけるコスト見直しの影響等による好転約20億円との説明があったが、具体的な内容を教えてください。
- A. 大きな要因が大半を占めるということではなく、細かなものの積み上げであり、なかなか一言で説明できるものではない。
- Q. 金属セグメントがQ1からQ2にかけて大きく減益の見込ですが、この要因をブレイクダウンして教えてください。
- A. 在庫要因除きで比較するとQ1からQ2にかけて、約50億円の減益。Q1、Q2ともに大きな特殊要因が含まれている訳ではないが、要因としては、ペルーのワンサラ鉱山の鉱石出荷がQ1とQ2ではQ1の出荷量が多く、10億円ぐらゐマイナス。銅製錬の実収差量減で8億円ぐらゐのマイナス。Q1の受取配当金がQ2にはないため、6億円ぐらゐのマイナス。亜鉛の原料構成差やエネルギーコストがそれぞれ5億円ずつで10億円のマイナス。残りは修繕費のアップ等、細かな積み上げ。

実際には、想定ほど悪くならない要因があり、Q2に関しては多少の上振れの可能性はあるかと思う。ただ、トレンドとしてはQ1からQ2にかけて減益と見ている。

以 上